

研究テーマ： 「Reading の力を高め、Writing へとつなげていくための工夫」

所属 北川村立北川中学校

氏名 小川 美加

RG JH4

(1) 研究の背景

本校は1年生13名、2年生7名、3年生9名、合計29名の小規模校である。

生徒は全体的におとなしくて素直である。家庭学習も決められたことはきちんとやってくる生徒が多い。しかし、英語学習に対する意欲には個人個人で大きな差があり、その結果が到達度にも影響している。生徒が自ら学ぼうという気持ちをどう引出していくかが大きな課題となっている。

英語の四技能の中でもとりわけ reading はすべての基本となる。読めないことは多くの場合、書けないことに結びつく。読む力を充実させ、未習の単語でも自分で読めるようになれば、自然と書く力も身についてくるはずである。reading 指導の充実が英語学習を苦手とする生徒への突破口となるだろうと考えて、今回のテーマを設定した

(2) リサーチクエスチョン

「Reading 力を高め、Writing へと効果的につなげていくためにはどうすればよいか」

(3) 予備調査

今回、リサーチする学年を1年生に設定した。

- ・授業観察 初めて英語を勉強するということで緊張もあるが、意欲的に取り組むことができる
発音に自信のない時には、全体的に声が小さくなる。
間違えることが恥ずかしいという意識がある。
2, 3年生についてのアンケート調査からも、未習の語や文を読むのに自信のない生徒が多くいることがわかる。

(4) 仮説の設定

- 仮説 1 入門期にフォニックスを徹底的に指導し、継続していくことで音と文字の関係を身に付けさせる。そうすれば、未習の語や文に対する苦手意識がなくなるのではないかと。
また、英語の歌に親しむことで、英語特有のリズムや音に慣れるのではないだろうか。
- 仮説 2 毎時間の音読の仕方を工夫する。1年生の教科書の文は短く、文の数も少ないので、毎時間本文の通読を行い、習ったことを常に繰り返していけば力に繋がっていくのではないかと。
- 仮説 3 音読テストを実施すれば、個々の生徒の実態を把握できるだけでなく、生徒同士の刺激にもなり、次への意欲に繋がるのではないだろうか。
- 仮説 4 書き取りテストを継続して行っていけば、読む力を書く力につなげていけるのではないだろうか。

(5) 計画の実践

- ① 入門期に音読み(フォニックス)を毎時間練習し、音の聞き取りと個別の発音テストを実施した。
中間テストには音読みの聞き取りを出題し、定着についても確かめた。

また毎回新出単語を読むときは先にどう読むか考えさせた。週に1回のCIRとの授業では発音について細かく指導してもらい、個別のチェックも行った。

英語の歌は10月ぐらいから3曲取り組んだ。

- ② ペアリーディング、シャドーイングなど単調にならない練習の仕方を工夫した。

授業の最初には、必ずProgram 1から学習したところまでの通読を個人で行わせた。

音読みについて個別のテストを実施した。

- ③ 学期の最後にCIRの協力を得て、音読テストを行った。テスト終了後はCIRから個別の評価をもらった。
- ④ 1つのセクションが終われば、必ずDictation Testを行った。やりっぱなしにせず、全文が書けるようになるまで再テストを行った。

(6) 実践の結果

- ① 最初は読み方の推測ができない生徒もいたが、だんだんと音と文字の関係をつかむ生徒が増えてきた。また、CIRの発音指導がたいへん参考になり、生徒も興味深く練習を繰り返すことができ、発音も向上した。英語の歌は、意欲的に取り組む生徒が多く、洋楽の好きな生徒の中には自分の歌いたい歌を持ってくる者もあり、英語学習への動機付けにもつながった。
- ② 1時間の授業の中でかなりの時間をReadingにかけることで、生徒へのインプットを多くすることを心掛けた。その結果、教科書の暗唱が自然にできるようになった生徒も多い。授業始めの3～5分を、習ったところまでの音読練習にあてたことも効果的であったと思う。
- ③ 1・2学期とも、適度な緊張感があってとてもよかった。終わってから、CIRが一人一人に対して細かいアドバイスをしてくれたので今後の学習にも多いに役立つものとなった。

「読めても書けない」という従来の状況を打破するため、『読めたら書ける』となるよう、今年は宿題の出し方も変えてみた。Program1～習ったところまでを書いてくる宿題や、1つのパートに出ている文を10回ずつ書いてくる宿題など、その都度色々と考えて工夫してみた。家庭学習は今までの「1日1ページ」よりもかなり多い量になったが、ほとんどの生徒が忘れずにやってきている。また、再テストは、できるまでやることを基本に取り組み、ほとんどの生徒が合格できた。

(7) 結果の検証

12月に行ったアンケートの結果、「読む・聞く・書く・話す」ことについて「よくできる」「できる」と評価した生徒が多かった。ただ、読むことを基本において授業を組み立てていったにもかかわらず、「読むこと」について「あまりできない」という評価をした生徒が4人いたので、さらに練習の仕方を工夫していく必要がある。歌については生徒にも好評だった。

(8) 成果と今後の課題

このテーマを研究して、「すべての基本はreadingにある」ということをあらためて実感した。繰り返し読むことで、暗唱が可能となり、やがて自分の中に「言葉」として定着するといった過程を授業の中で感じた。生徒の中にはまだまだ読むことを苦手とするものもいるが、〈徹底した〉練習でさらに力をつけさせたい。

今回の授業プロジェクトを通して自分の授業をあらためて再点検し、少しでも改善できたことは私にとって大きな成果だったと思う。